

# 会 議 録

## 1 会議名

第6回大潟区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### ・協議事項（公開）

（1）自主的審議事項「大潟区の魅力発見・発信」の進め方等について

### ・報告事項（公開）

（1）（仮称）上越市体操アリーナの設置について（通知）

（2）地域活動支援事業に係る課題及び改善策について

### ・その他（公開）

## 3 開催日時

平成29年10月26日（木）午後6時30分から午後8時50分まで

## 4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 2階 中会議室2

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員： 石田浩二、梅木英亮、金澤幸彦、君波豊、後藤紀一、小山茂、佐藤忠治、  
佐藤博之、新保正雄、内藤恒、中嶋浩、西田耕一、細井義久、柳澤周治、  
山田幸作、山本宏

（16名全員出席）

・事務局： 鍵田大潟区総合事務所長、熊木次長（総務・地域振興グループ長兼務）、  
道場市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長兼務）、朝日総務・  
地域振興グループ班長、佐藤総務・地域振興グループ主任（以下、グルー  
プ長はG長と表記する）

## 8 発言の内容（要旨）

【熊木次長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【佐藤忠治会長】

- ・ 挨拶
- ・ 会議録の確認：君波豊副会長に依頼

【熊木次長】

では、協議事項に入る。議長は会長が務める。

【佐藤忠治会長】

協議事項に入る。自主的審議事項「大潟区の魅力発見・発信」の進め方等について協議する。前回の協議から時間が経過しているので、おさらいの意味を含めて副会長から説明をする。

【君波豊副会長】

前回の会議から時間が空いて皆さんの記憶が薄れている部分があると思うので、説明を聞いて記憶を呼び戻していただきたい。「大潟区の魅力発見・発信」については、平成28年10月27日の第9回地域協議会から「大潟区の魅力発見・発信」を自主的審議事項として協議していくということでスタートし、ちょうど1年が経過したものであり、そろそろまとめる時期に来たのではないかと。

平成29年7月27日開催の第4回大潟区地域協議会で、参考資料として事務局がまとめたものが手元にあると思うが、この資料によると第1回地域協議会において、検討会を設置し検討していくということに決定し、検討委員7名が選出された。以降5月15日、6月19日、7月6日と3回の検討会を開催している。7月27日の地域協議会でDVDを鑑賞した。今後の進め方として検討会で検討した結果、5件の発信のポイントを決定した。発信の手段としてはDVD化、資料化、冊子、観光マップを作製し発信していく。資金源としては、「地域を元気にするために必要な提案事業」や「地域活動支援事業」の活用を考えていく。また、関係団体との意見交換を必要に応じてしていくものである。

その他として「(仮称) 上越市体操アリーナ」について問題提起していただいたが、ご存じのとおり市議会9月議会において土地購入等の予算が決定しているので、ほぼ大潟区に建設されるということが明確になった。我々の自主的審議事項の対象となってくるのではないかと。以上がこれまでの経過である。今後の進め方について、具体的な議論を進めていきたい。意見交換し検討していきたい。

先日行われた頸北地区地域協議会委員合同研修会の「自主的審議事項や地域を元気にする提案事業の取組について」という分科会に大潟区から3名が参加したので、内容を紹介していきたい。後藤委員、中嶋委員、そして私が参加し、後藤委員の方から今説明したような内容を報告した。

**【佐藤忠治会長】**

その件については、その他で報告するはずではないか。

**【君波豊副会長】**

この件と関連があるため、ここで報告する。

頸城区、吉川区、柿崎区でもそれぞれ自主的審議事項のテーマをどうするかということと取り組んでいる。

頸城区では、5か所の地区に出向いて意見交換をした結果、7件の課題が提起されたということであった。現在は、産業振興、地域振興、教育福祉の3部会を作り課題ごとに協議し、12月に全体で意見交換をする予定であるということであった。平成30年3月にテーマを絞り込んで自主的審議を始め、31年度には「地域を元気にするために必要な提案事業」に結び付けたいと進めているということである。

吉川区については、自主的審議事項のテーマがあるか無いかということと地域へ出てヒアリングを実施した。小学校区単位で意見交換会を開催し提起された意見を基に、暮らし、産業、安心の3部会を設置し、それぞれ担当する課題を協議、絞り込みを進めているということである。

柿崎区については、平成29年6月から7月にかけて区内6か所で地域懇談会を開催したが、「地域協議会とは」という説明に時間を費やしてしまったということであった。地域協議会に興味がないという方に説明し、理解を深めてもらったようである。提起された意見を協議し、10月にテーマを絞り込み協議に入りたいとのことであったが、10月も終わりに近づいているのでテーマは設定されているであろう。柿崎区においては

昨年度に頸北斎場問題を集中協議し5月に意見書を提出した。柿崎区は頸北斎場問題で地域協議会というものを、地域住民にPRできたのではないか。また、意見交換を行うために地域へ出る場合は、行政も参加しているということであった。

大潟区は地域には出ていないが、頸城区、吉川区、柿崎区では地域へ出て意見交換をしているということであった。最終的には、大潟区を除いて各区とも自主的審議事項のテーマを絞り込む過程であり、地域協議会と行政、地域とで連携を深めながら「地域を元気にする課題提案」につなげてほしいということでもとまった。

大潟区の自主的審議事項については、テーマが決まっており他の区より一歩前に出ていると感じるが、これから協議を進めてもう一歩前に出ることができれば良いと考える。

#### 【朝日班長】

(資料No.1により説明)

前段の部分については先程の説明と重複するので省略する。発信のポイントが6つあるので、検討委員が各グループの長として入り、各グループ3名程度で今後、内容、構成について検討していただきたいと考えている。先程の君波副会長の話の中で出た「地域を元気にするために必要な提案事業」であるが、今までの事例が頸城区のみであり、なかなかこれを予算化するのは時間がかかる作業である。

行政の具体的な話をすると平成30年度の予算については編成作業に入っており、この段階で予算化するのは厳しいものがある。ここでのスケジュール案は「地域活動支援事業」の活用を想定したスケジュール案となっている。

(今後のスケジュール案について資料No.1により説明)

#### 【佐藤忠治会長】

この件について意見はないか。

#### 【金澤幸彦委員】

発信のポイントについてだが、⑥の「(仮称)上越市体操アリーナ」については来年度になっても形や姿が見えないわけであり、DVD等の作製の時期については、かなり無理があるのではないか。

#### 【佐藤忠治会長】

検討会では具体的な協議をしていないので、個人的な考えであるが、現在の体操アリ

ーナを利用し、体操競技の練習をしている子ども達、また指導しているレインボージムナスティクスを応援する。競技会でも良い成績であり、大潟区の魅力の1つではないかという意味で発信できればという思いである。体操競技そのものが「体操の町大潟」の魅力であり、それを発信できればという意味を込めている。

【金澤幸彦委員】

だとしたら尚更、(仮称)とついているため、今回の計画に合わないのではないか。

【佐藤忠治会長】

まだ検討会で協議をしていないが、(仮称)を取るべきではないか。今の体操アリーナそのものの存在というべきか。

【金澤幸彦委員】

まだほかにも頑張っている競技もあるのに、体操競技に特化するということのもいかななものかという気がする。

【佐藤忠治会長】

それはまた皆さんで協議していかななくてはならない。その他にそういった体操競技などの魅力があるということである。今後も建設されて注目されていくであろうと考え、5年先を見越した「大潟区の魅力発見・発信」の中で大きく占めるのではないか。

【金澤幸彦委員】

ほかのスポーツをやっている団体から反発が来るのではないか。

【佐藤忠治会長】

皆さんどうか。これについて協議するのは今日が初めてであるが。

【金澤幸彦委員】

体操アリーナが完成し、この施設を守っていくということになれば方向性が見えてくるが、まだ完成せずに体操競技だけ特化して他のスポーツ団体を差し置いてということが、偏りすぎているのではないか。

【佐藤忠治会長】

ほかの委員の意見はどうか。

【後藤紀一委員】

スポーツという点で言えば、確かに金澤委員の言う通り他にも活躍しているところがある。大潟フェニックス、ゲートボールなどが活躍している。種目を特化するというよ

り施設があつてそれを利用している点では既存の施設があるので良いと思うが、体操競技を載せるということは他の団体とのバランスからいってどうかとを感じる。載せるのであればスポーツが盛んな町という形でいろいろなグループを紹介するという形が良いと思う。

施設なのか、スポーツなのかという点である。

**【金澤幸彦委員】**

施設ができていけば、こういう素晴らしいものがあるということで流れていくが。

**【佐藤忠治会長】**

現在の体操アリーナも素晴らしい施設である。

**【金澤幸彦委員】**

今の施設でいくと、体操というスポーツに特化してしまうのではないか。そうなるかどうか。どういったまとめ方をすれば良いか。

**【佐藤忠治会長】**

スポーツの町の方が良いか。ゲートボールも子ども達が活躍しているし、野球も盛んである。永年の努力が実ってきている。その点で言うと金澤委員のいうとおりである。他の委員はどうか。

**【中嶋浩委員】**

施設については、仮称であり具体的な名前がない中でどうか。どこにスタンスを置いてという面では金澤委員の言うことも理解できる。この案で行くということになればこのグループで考えていただきたい。他と観点が違う面では、違和感がないではない。

**【金澤幸彦委員】**

現在のアリーナをメインに持っていくとなれば話は別であるが、仮称となっているのに編集を試みようがないのではないか。現在のアリーナを紹介しながら発展的なものに持っていければ良いのではないか。

**【梅木英亮委員】**

大潟区は体操ばかりではない。いろいろなスポーツに力を入れているということを表すようにした方が良いのではないか。

**【君波豊副会長】**

体操アリーナについてはある程度具体化してきた。私の考えだが、上越市全体では大

潟区で良いのかと賛否がある。我々としては、2つあっても良いではないか、歓迎である。大潟区を体操の区として市内外に発信する。具体的には完成していないのでDVDにしてみようもないが、建設過程から記録を取ったりしながら体操アリーナを大切な施設として地域住民に根付かせていく。賛否の否の方達に対して、大潟区は全戸を挙げて歓迎しているということを発信するだけでも効果があるのではないか。建設の過程、更地のままの状態でも記録に残すのも良いのではないか。

**【後藤紀一委員】**

ただ、そうすると市が市民に理解してもらうために話を進めていく過程であり、当該の地域協議会が誘致大歓迎となると逆効果にならないか。市は、なぜ大潟区に（体操アリーナを）建設するのか説明していくと答弁している訳であるから、そういう段階でどうなのか。

**【鍵田所長】**

平成30年度にDVD等の作製となっているが、スケジュールありきではなく、工事の進捗を見守りながら平成31年度に成果を出すというのも1つの案である。その観点からも検討いただきたい。

**【佐藤忠治会長】**

⑥の（仮称）上越市体操アリーナについては検討委員会でも協議はしていない。金澤委員が言うのも、もつともである。意見があって当然である。他のスポーツ、子ども達の育成に力を入れているということも実際そうである。今の体操アリーナを拡充する意味で、東京オリンピックを見据えて新しい施設ができることを含めて発信するという進め方にするのか、協議することが初めてであるので、委員の意見を踏まえて検討委員で協議していただきたい。委員からは忌憚のない意見を出していただきたい。新保委員どうか。

**【新保正雄委員】**

これで良いのではないか。体操アリーナができて全国から人が集まってくるようになれば良いので発信すべきではないか。取りあえず現状の体操アリーナをメインにし、DVDを作製する頃になれば形が見えてくるのではないか。大潟区の魅力が発信できるのではないか。

【佐藤忠治会長】

先程意見があったように体操に特化するのではなく、他のスポーツも含めて発信するという意見についてはどうか。

【新保正雄委員】

他のスポーツについては他の地域でも盛んである。大潟区でなくても良いのではないかな。

【佐藤忠治会長】

内藤委員どうか。

【内藤恒委員】

体操アリーナを核としたスポーツの町大潟としたほうが良いのではないかな。体操アリーナだけに特化するということは、今の段階では時期尚早だと考える。⑥については棚上げということで順次進めていくことで良いのではないかな。体操アリーナの進捗状況を見て追加していくので良いのではないかな。

【佐藤忠治会長】

以前、石田委員から体操アリーナについてどのように発信していくのか、具体的な方策を自主的審議事項で進めていくのはどうかという提案があった。今回の「大潟区の魅力発見・発信」が終わり、一段落してから協議するという予定もある。

【内藤恒委員】

今、建設予定地はシートをかぶせてあり何をしているのかわからない。地盤の改良なのか。所長は、わかるか。

【鍵田所長】

工期は今月末までであるが、帝石が有害物質の除去や石油採掘時の埋設管の除去作業を行っている。

【内藤恒委員】

入札は終了したのか。

【鍵田所長】

入札というのはどのことであるか。

【内藤恒委員】

工事の入札である。



【鍵田所長】

まだである。土地から有害物質、埋設管等を撤去し、きれいにした状態で市は契約していく。工事終了後、仮契約を結び、12月議会で承認後本契約を結んでいく。9月議会において土地の造成費用の補正予算が承認されたが、契約後、土地造成に入っていく予定である。これから降雪期になるため、雪消え後の3月ぐらいから工事に入り、年度を越えて4月頃には終わる見込みである。

【内藤恒委員】

用地の買収は終わったのか。

【鍵田所長】

これからである。12月議会で議決されてからである。

【佐藤忠治会長】

スポーツ関連の委員はどうか。スポーツ全般としたほうが良いか。

【梅木英亮委員】

スポーツ全般としたほうが良いと思う。体操だけに特化するというのはまだ早いのではないか。

【佐藤忠治会長】

細井委員はどうか。

【細井義久委員】

梅木委員の言う通り、現在の体操アリーナで選手が練習等をしているが、「上越市体操アリーナ」という名目のものはまだこれからである。大潟区を発信するためにアリーナばかり考えないで、「スポーツの大潟」という形でいろいろな種目があることを入れて、そこで体操アリーナというものがあると発信していけば良いのではないか。

【佐藤忠治会長】

山田委員どうか。

【山田幸作委員】

今までの検討の中で、新しい体操アリーナを自主的審議事項としていこうと決めているため、スポーツ全般に変更するのは早いのではないか。内藤委員の意見のとおり、①から⑤までとは性格が違うが、これはこれで段階的に進めていけば良いのではないか。スケジュール的には合わないかもしれないが、そのほうが良いのではないか。

【佐藤忠治会長】

意見が2通りあるがどうか。ここで決を採って、どちらかの方向へ持っていくか決定するか。

【新保正雄委員】

ここで決めなくても良いのではないか。

【佐藤忠治会長】

いつ決めるか。

【新保正雄委員】

このグループで審議してもらってからで良いのではないか。

【佐藤忠治会長】

⑥のグループで今の議論を踏まえて、協議してもらってからで良いか。

【新保正雄委員】

良いのではないか。

【佐藤忠治会長】

スポーツの町という意見も含めて、このグループで議論してもらおうということで良いか。

【君波豊副会長】

スポーツ全般という意見も否定はしないが、スポーツ全般というと広がってしまってどれに焦点を当てるかという議論になってしまう。

今回の体操アリーナというものは、オリンピックとの関わりが非常に強い。ドイツの合宿もあり国際基準に合致した施設をつくるということであり、将来的には北信越大会レベルの競技会をするという、ある程度の目的、使い方が具体的に示されている。2020年のオリンピックというのはそんなに時間がないのではないか。それに向けて大潟区としては、どのようにPRしていくかと考えると早くはないのではないか。もし早すぎるというのであれば、現在のレインボージムナスティックスの取組状況を紹介し、だから大潟区には本格的な施設が必要であるということに結び付けていくというのも1つの方法ではないか。それが大潟区になぜ2つもという否定的な意見を打ち消す手段になる。部会を作り、そう言ったことを検討して、できるものから発信していきたい。新しい施設ができるのは画期的な事であり、それに対する地域協議会としての取り組み、地

域あげての歓迎ムードを発信していけば良いと個人的には考える。

**【佐藤忠治会長】**

それは自主的審議事項として、違うテーマで行っていけば良いのではないかと。

**【君波豊副会長】**

そればかりではなく、いろいろなPRの方法を考えていかななくてはならない。当面はオリンピックに結び付けて大潟区としてはドイツ体操チームを歓迎するという意思表示が必要なのではないかと。全市において否定的な意見もあるが、大潟区には温泉や県立水と森公園があり、選手を迎えるのに良い条件があるということ、魅力を外に知らしめていくということが必要ではないかと。

**【後藤紀一委員】**

体操アリーナが体操専用の施設であり、全国的にもいくつも無いということは間違いないことであり、知ってもらおうということは良いことである。が、今の段階でこのスケジュールに載せていくのはどうかとを感じる。ただ、スポーツが盛んな町ということでは、ぼやけてしまい、本当に大潟区の魅力ということとそれでいいのか。その点からみると、大潟区の体操アリーナは体操専用施設として画期的な施設になることは間違いないため、大潟区の魅力発信のアピール材料としては必要ではないかと。今の時期はどうなのかということ、引っかかるため別という考えで良いのではないかと。

**【新保正雄委員】**

体操アリーナが完成した時点で、PRのDVDを作製し発信するというのも1つの方法である。①から⑤までを先に作製し、体操アリーナが完成した段階でDVDを作製し、更にPRする。

**【佐藤忠治会長】**

それも1つの方法である。

**【小山茂委員】**

新保委員の意見と重複するが、体操アリーナはまれにみる施設であり特化することに価値があるのではないかと。全容がはっきりしていないので、PRするとすれば時期をずらして行う。確固たるものができ、PRするチャンスを狙い撃ちしていくほうが良い。

**【内藤恒委員】**

段階的に盛り上げていけば良い。

【佐藤忠治会長】

では、そういう意見が多いが、⑥のその他の部分はどうするか。体操だけではなく、ゲートボール等、他のスポーツを紹介していくのか。

【内藤恒委員】

あまり幅を広げない方が良いのではないかと。焦点がぼけてしまう。

【小山茂委員】

ある程度、これが大潟区という色が付いた方が良いでしょう。野球はどこでもやっている。

【西田耕一委員】

体操は、今現在体操アリーナがありそこでの活動や活躍があって、新しい体操アリーナができるわけである。今までに無いような施設ができるわけであるから、魅力としては発信していった方が良いでしょう。体操アリーナの代わりに他のスポーツということであれば入れない方が良いでしょう。ゲートボールなどはどこでもやっている。それを魅力として人が来るか、来ないであろう。体操アリーナは日本全国又は海外からも人が来る施設であるので、魅力として発信しようということでは問題ない。

【内藤恒委員】

委員は委員として現在のアリーナを取材し、新体操アリーナの進捗を見ながら順次進めていけば良いでしょう。誰かがやらなくてはならない。

【佐藤忠治会長】

という意見もあるが、どうか。もう意見は出尽くしたか。

【金澤幸彦委員】

「上越市体操アリーナ」にするのであれば、平成30年12月には間に合わない。現在、大潟体操アリーナには各地から合宿等に来ている。その延長線上に「上越市体操アリーナ」がある。というような構成であれば良いでしょう。

【君波豊副会長】

検討会で口火を切っていけば良いのではないかと。例えば上越をつけないでほしいなど検討会で論議すれば良いでしょう。既設のアリーナで活躍している人の姿を見せて、だから新たに大潟にできるということをPRしていく。一番取り組みやすいテーマではないかと。ゼロからのスタートである。

【佐藤忠治会長】

今の意見を踏まえてグループは6つにすることで良いか。グループ内で協議をして頂きたい。よろしいか。グループ分けは希望を出してもらい分けていく。

【中嶋浩委員】

発信のポイントも今後変わってくる。(2)の進め方であるが、DVDがベストなのかという疑念を持っている。いまなぜDVDなのかと問いたい。他にないのかと皆さんから意見をお聞きしたい。大潟区で作製することに意義があり、地域協議会の委員が中心となり限られた予算をどう活かすか。

【佐藤忠治会長】

検討会では、観光マップ、資料集、冊子などの1つとしてDVDがあげられた。まちづくり大潟と協議しようとしているのは観光マップである。我々だけではなく、まちづくり大潟や町内会長協議会等で構成する大潟区連絡会議と協議していく。郷土史を研究しているグループとも意見交換したい。地域住民との懇談会も必要ではないか、大潟区の魅力発信を盛り上げて作っていければ良いと考えている。6項目あるが3人ぐらいのグループで協議していけるか。2つの項目を1つのグループで協議するというのも一つの方法ではないか。

【中嶋浩委員】

なぜ今、DVDかという返答はいただいていないが、今後のスケジュールとして地域活動支援事業に提案とあるが、これは他団体が提案しないといけない。働きかけが必要になってくるということである。

会長が言ったように関係団体、地域の盛り上がりをどう生み出しているかがDVDを作製する過程で必要だと考えている。そう意味では、発信のポイントはこれだけか。金澤委員からの意見があったように、アリーナについてはこうであるといったように、他にもについても全体で検討したほうが良いのではないか。

DVD作製完了が平成30年12月の予定であるならば、予算や働きかけなどスピードを上げないといけない。

【佐藤忠治会長】

11月20日に大潟区連絡会議を開催する予定である。地域協議会として「大潟区の魅力発見・発信」事業を進めていきたいと協力の要請を提案する予定である。

【中嶋浩委員】

具体的にはどういう協力が予想されるか。反対する人はいないと思うが。

【佐藤忠治会長】

まちづくり大潟のコミュニティ部会で、マップづくりをする予定になっている。大潟区の魅力についてコミュニティ部会と協議する。

【中嶋浩委員】

となると、まちづくり大潟との協議で発信のポイントは精選される。

【佐藤忠治会長】

あとは、郷土史おおがた友の会などの団体もある。

【後藤紀一委員】

発信するという事はDVDや資料を作製しただけではだめなのではないか。どこへ配布するのか、全戸に配布するのかということになる。例えば町勢要覧などは町へ視察に来た人へ配布した。町民には配っていなかった。

【君波豊副会長】

いや、全戸に配布されていた。

【熊木次長】

町勢要覧等は全戸に配られていない。

【後藤紀一委員】

普通は視察用である。いろいろな方法があるが、例えば上越市ホームページというわけにはいかないが、まちづくり大潟のホームページで紹介する。DVDを作製しても、その中身を紹介しないと、これからの時代は作製しただけでは駄目である。伝える方法を考えていかななくてはならない。

【佐藤忠治会長】

総合事務所のホームページでも大潟区の魅力が紹介されている。

【後藤紀一委員】

そこに載せるなどするのが良いのではないか。いろいろなところに載せても良いわけであるから。

【中嶋浩委員】

DVDは全世帯に配るということで一步進んだ。DVDは、ほとんどの家庭で見られるだろう。そこに区内のスポットを載せる、誰か知っている人が取り組んだということでもないと、ただ出来上がったものを渡しても見る人は少ないのではないか。そういった意味で、なぜDVDかということになる。DVDを作って成功したという例はあまり聞いたことがない。マイナスの話ではないが、よく確認して前に進んだ方がよい。

【佐藤忠治会長】

今まで大潟町時代も視察の人に説明するためにDVDを作製したようなものである。町民に配布されずに、見る機会はほとんどなかった。検討会においても検討されていないのでここで意見を出してもらいたい。グループ化は3人くらいで良いか。5人くらいで3つのグループとするか。

【後藤紀一委員】

少なくとも人数的にはそれくらい必要ではないか。どれで1グループにするか難しいところであるか。

【佐藤忠治会長】

それで良いか。①と②、③と④、⑤と⑥のグループで良いか。

(一同了承)

そのグループの中で代表を決めていただきたい。どのグループに入るか委員から希望を出していただきたい。では3グループにするということにする。

(グループ分けを行う)

【佐藤忠治会長】

では、この件はよろしいか。

(一同了承)

次に報告事項に移る。(1)(仮称)上越市体操アリーナの設置について(通知)を事務局が説明する。

【朝日班長】

(資料No.2について説明)

【佐藤忠治会長】

本件に関して私と君波副会長が9月議会を傍聴してきたので、感想を述べたい。

9月21日の近藤議員の一般質問は、事業が大幅に拡大し、体操アリーナをなぜ大潟

区に作る必要があるのか、作るのであれば県立武道館を建設している近くに作ったほうが良いのではないかということであった。教育長の答弁は高田の人から見れば大潟区は遠いが、大潟区からは今の大潟アリーナの拡充ということで請願が出て、市が検討した結果、体操連盟の要請、オリンピック・パラリンピックの合宿などを考慮して大きくなったものであるという内容であった。体育課の課長は、諮問の時とは違った内容で議員に答えていた。上越市の体操競技において歴史というか伝統がある。高田高校などで新潟県下でも優秀な成績を取めた実績があるということであった。大潟区では40年前から多くの指導者が熱意をもって指導に当たった結果、地域を上げて体操の普及に取り組んでいる。会員が360名という県内最大級の体操クラブが組織されている、という説明であった。

丸山議員からは、大規模な大会を開催するのであれば、現在の体操アリーナとリージョンプラザのインドアスタジアムで行えば良く、新たなアリーナを建設する必要はないのではないかという質問であったが、教育長の答弁と議員の質問で議論がかみ合わず市長が答弁したものの、教育長の答弁で十分であるということであった。

#### 【君波豊副会長】

9月22日の武藤議員の一般質問は、既存の施設があるのになぜ新規の施設を造るのかということと事業の拡大、ドイツチームの合宿の後の主な利用について検討しているのかという内容であった。それに対する答弁は、既存の施設があっても北信越大会レベルの大会を誘致したいこと、年間を通してかなりの利用者がおり、更に利用者を増やしていくということをして市として強調していた。武藤議員からは「テニスの町柿崎」においても現在はテニス人口が減少している。そういったことも懸念されるのではないかということであった。市長からは、大潟区に市長がいるから、議長がいるからということが言われているが決してそういうことではない。大潟区からはアリーナの建設について共感の意見をいただいている。事業費の拡大については、これから市民の皆さんに丁寧に説明していくという答弁であった。

9月26日の上野議員の一般質問については、大潟区に2つ目の施設が必要か、市民の意見を聞く時間が十分ではなかったのではないかという内容であった。それについては、請願の趣旨を踏まえてという答弁であった。また、再質問では、地域協議会が2回ほどの審議で十分に議論したと言えるのかということでも地域協議会についても触れてい



た。頸城区住民の中では、公共施設の統廃合の中で1つあるのになぜ2つ目かという意見も出ているということも言っていた。アリーナの建設費用については特例債を利用するので、市にとっては大きな負担にはならないという答弁であった。また、市長からはオーレンプラザ、水族館、体操アリーナは、まちづくりにおいて必要な施設であるという答弁であった。

**【佐藤忠治会長】**

今の報告で質問はないか。

(発言なし)

では、この件については以上である。次に移る。

報告事項(2)地域活動支援事業に係る課題及び改善策について、事務局から説明する。

**【佐藤主任】**

(資料 No. 3 について説明)

**【佐藤忠治会長】**

この件に関してはよろしいか。

(発言なし)

では、その他に移る。

頸北地区地域協議会委員合同研修会の分科会について、出席委員の代表が概略を報告する。

先ほど、君波副会長から第二分科会の報告があったので、第一分科会の報告を内藤委員から願います。

**【内藤恒委員】**

第一分科会は「地域活動支援事業の取組みについて」ということであった。各区において点数基準にずれが生じている。2つ目として、2次募集に時間を要しており、委員の負担となっている。区によっては1次募集で終わるところもあり、2次募集でもなかなか提案がないところもあるということであった。他に、大湊区でもあったことであるが町内会の支援事業についてであり、基本的には同じで物品購入については不可であった。町内会の申請については良しとする区もあれば、基本的には不可というところもあった。支援事業に対する結果の確認ということが、区によっては曖昧なところもあった。

## 【朝日班長】

今の内藤委員の報告に関連するが、平成28年度上越市地域活動支援事業事例集を手元に配布した。9月に自治・地域振興課でまとめたものであり、参考資料として頂きたい。

## 【佐藤忠治会長】

では、私から第三分科会の「他団体と地域協議会の関係について」を報告する。

頸城区は他団体との連絡会議等はない、吉川区もないということである。

柿崎区では、年に1度まちづくり振興会と地域協議会が会議を行い、会議終了後に懇親会を行うということであった。

君波副会長からも報告があったが、頸城区では出前協議会を行っているということであった。昨年度は2月1日から8日までの間に5か所の会場で行ったということである。自主的審議事項にするために出た意見を絞り込んでいるところであるということだ。頸城区では、地域協議会で「地域を元気にするために必要な提案事業」を活用し観光協会を発足、車両も1台購入した。

吉川区では前々から部会を作っており、前期の地域協議会では農業部会と地域振興部会があった。

柿崎区では委員会制度を立ち上げているということである。地域協議会委員を「地域協議会だより」「地域活動支援事業」「懇談会」と3委員会に分けてそれぞれ協議をしている。出張協議会は名称を「地域の皆さんと地域協議会委員との懇談会」とし、今年はテーマを「自主防災のあり方」「空き家対策」と2つに絞って行っており、行政を入れないうで地域協議会だけで懇談会を開催した。行政を入れると行政への要望ばかりになってしまうとのことである。今最大の問題は、保育園に関わる課題があり継続的に審議しているとのことである。

唯一他団体との連絡会議をもっているのは大潟区であった。

## 【内藤恒委員】

今回は柿崎区が合同研修会の幹事であった。来年は大潟区である。懇親会で他の地域協議会と親睦を深めることは大切なことであると感じた。懇親会に出席したのは大潟区では4人、頸城区では9人、吉川区は10人、柿崎区は11人である。来年は大潟区で研修会が開催されるが、都合が悪い人は致し方ないが大勢の方に参加していただきたい。

【佐藤忠治会長】

講演会も大変いい内容であった。来年は大潟区が幹事であるので、積極的に参加していただきたい。

【君波豊副会長】

地域活動支援事業の報告について、区によっては曖昧であるという報告であったが、必ず報告書を提出することになっているはずであり、各区によって差があるのか、具体的にどの区か、特にわからなければ良い。

【内藤恒委員】

メモを紛失したため、わからない。

【佐藤忠治会長】

この報告はこれで終わるが、視察研修について意見を求める。去年は視察研修をしなかったが、今年はどうするか。次回に意見を出していただきたい。

次に、柿崎区の養鶏場の営業再開の件で所長から説明する。

【鍵田所長】

(内容について説明)

【佐藤忠治会長】

他に委員からの連絡がなければ、事務局から次回の予定について連絡である。

【熊木次長】

第7回協議会は11月30日(木)午後6時30分からとしたい。

(一同了承)

【佐藤忠治会長】

他になければ終わりにする。

【君波豊副会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL : 025-534-2111 (内線 201、216)

E-mail : ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。